

令和3年度 いこま SDGs アクションネットワーク アドバイザー会議（第1回）

開催日時：令和3年10月28日(木) 10:00～11:30

開催場所：生駒市役所 302 会議室

出席者

(参加者) 浦林直子氏、清水綾氏、濱田信吾氏、松田裕貴氏

(事務局) 地域活力創生部次長兼 SDGs 推進課長川島、SDGs 未来都市推進係長上野、SDGs 未来都市推進係員藤村

案件

議題1 いこま SDGs アクションネットワークについて

議題2 アドバイザーの役割について

事務局から概要について説明。

事務局 本ネットワークのように、分野を超えた連携を図るためのプラットフォームは生駒市として恐らく初めて。本ネットワークの活用方法を考えるのが今回の会議。SDGs は遠いものと感じている市民が多い。地域課題に引き寄せて市民にアプローチできる策を考えていただきたい。

事務局から事業の説明

参加者からの質問

松田氏 キックオフイベントの様子や、出てきた意見はどうだったのか。

事務局 70名程度の会員が参加。
市長によるSDGsを踏まえたまちづくりの方針の話や、ローカルSDGs提唱者の川久保先生による講演、SDGsに取り組まれている事業者・団体によるパネルディスカッション、会員同士の交流会を実施。
交流会では、会員どうしで今日の感想、今取り組んでいるSDGs活動の課題などについて意見交換をしていただいた。

濱田氏 参加者は想像以上に多く熱気があった。
市民団体が多いのかと思っていたが事業者の方も多くいた。
会員交流の際は、SDGsから環境そして脱プラへと話題が移っていったが、その際に、プラを扱う事業者の方の発言として、「単純にプラをやめようという方向に進み、それを強要してしまう流れになるとよくない。大きな目標に向けて進めていくことも大事だが、現状も見据えながら、どのようにやっていくかが重要だと思う」というものがあった。
事務局としてはイメージ通りの運びだったのか。

事務局 市民団体はまだ市内にたくさんいる。増やしていきたい。
一方事業者にもたくさんご参加いただくことで、事業の具体化の際の土台にもなっているだけの役割を期待している。

濱田氏 補助金については、2団体以上の協働が条件になっているが、市民団体と事業者の連携を期待しているのか。

事務局 市内で課題の解決に向けて取り組みをされている市民団体を応援してもらいたいと考えている。

浦林氏 事業者同士の連携は対象とならないとのことだが、市民団体同士の連携は対象となるのか。

事務局 市民団体の場合は対象。

清水氏 キックオフイベントの際の感想としては、近畿編針の話が心に残った。
竹を使ってウール 100%の毛糸を編むことを究極のSDGs だという発言に対して、自分の取組にSDGs を落とし込んでいるところがすごいと感じた。
多くの方がSDGs はどこか遠いものを感じてしまっているが、既にそういった気づきをされている方が集まっている場なのだと感じた。

濱田氏 会議で出た案を実現出来たらいい。

清水氏 キックオフイベントの際に近畿編針が発言していたが、SDGs な製品を作っても、国内にはそれを梱包するための包材がSDGs ではないというような、自身が抱えている課題を言葉にすることで、対応できる事業者が現れたりして、解決につながるのかもしれない。

事務局 近畿編針では製品の70%を輸出している。その大部分を占める欧米ではSDGs への意識も高い。パッケージも脱プラ、認証獲得が求められたりする。しかし、紙パッケージにすると中身が見えなくて売り上げ減につながる。そういったところまで手の付けられない事業者が多いと思うが、今後日本の水準が欧米に追いつくと、SDGs の取組に置いて行かれてしまう会社も出てくるのかもしれない。

濱田氏 商品はSDGs でも、SDGs なパッケージを海外から調達したりしているのが現状。そういうものが生駒でできたらいいと思う。今後国内でも需要が出てくると思う。
羊を使って雑草処理をしている事例もある。
出てきたアイデアを拾って、できるものをしていきたい。

浦林氏 会議でアイデアを出して終わりじゃなく、発展させていく必要がある。
このSDGs 推進事業補助金は単年の事業が対象なのか。

事務局 単年。
この補助金の趣旨としては、地域における課題解決のモデルケース創出。
活動の継続的な支援は現在の市民活動における課題だと思う。
今回は、事業者が加わることでそういった部分の支えにもなってもらえないかと期待している。

濱田氏 継続することが重要。お金が問題なら、事業者と繋がれるようにしていけたら。
そうでなければ1回だけやって2回目以降がないというよくある状況になりかねない。

清水氏 市民の行動変容に落とし込むのであれば継続は必要。

濱田氏 今回の補助金のように、会員から提案を受けるボトムアップ型の補助制度もいいと思う。
一方で、公募研究のように、こちらからテーマ指定してそれに応えられる事業に補助するという形もいいのではないかと。
そうすることで、より具体的な内容になると思う。

- 松田氏 SDGs のゴールは種類が多いため、目指す先が一致しないという懸念もある。
公募研究のようにテーマを絞ると、現在会員でない団体の参加も募れるのではないか。
テーマが広いと、当たり障りのない、表面的な話に留まってしまう。テーマを絞る、分科会のように分けることもいいかもしれない。
- 松田氏 キックオフイベントに参加した学生に尋ねると、会員によって SDGs への意識レベルもバラバラだと言っていたので、底上げする必要がある。また、レベルが違う人と組むと認識の違い、意見の食い違いなどがあるのかも。
- 事務局 SDGs のゴールは多岐にわたる。市として1つを設定した場合に、それ以外は関係ないと認識されてしまうと困る。ゴール全体に取り組みつつも、ポイントとなるテーマを定めるといいのかも。
SDGs=ゼロカーボンという風潮の中で、石油製品を扱う事業者などは、課題を感じながらも、参加されているところがある。
そういった団体の参加方法も考えないといけない。
- 事務局 市民だけでなく、事業者の行動変容も求められる。
- 浦林氏 SDGs=環境問題みたいな認識が広まってしまっているが、SDGs はもともと、誰一人取り残さないという理念である。そういった啓発なども必要かもしれない。
- 濱田氏 SDGs は環境・経済・社会の3本柱でよく語られる。環境だけでなく、社会の持続可能性も大切。
- 浦林氏 知っている人は知っていると思うが、知らない人へのアプローチをしていく必要がある。
- 松田氏 身近な話からのアプローチ、例えば健康などのテーマを切り口にするといいのではないか。
- 濱田氏 まずは今年度、補助金でどういった事業が上がってくるかを確認し、今後、市民が生活レベルで考えられるような公募テーマを定めたいうえで、事業を募ってもいいかもしれない。
SDGs が社会や生活に直結しているということを見せていく必要がある。
- 事務局 次年度のためにも今年度でモデルケースを示すという意味合いでも、何かしらの事業化はしていきたい。
- 浦林氏 現在の申し込み状況は。
- 事務局 問い合わせは数件来ているが、申し込みはまだない。
- 浦林氏 私たちも市内の団体なので応募資格があるが、期間的にも厳しい。
- 事務局 今年度はタイトなスケジュールになっている。次年度以降は年度初めから動けるので、募集も早めにスタートできる。
会員への周知としては、キックオフの際に簡単に説明し、後日詳細をメール。
- 濱田氏 補助対象となるのは、2者のどちらとも会員である場合のみ？
- 事務局 1者が会員であればOK。
もともと連携されている団体は生駒市に既に多い。この補助金の活用方法の検討を通じ

て、他事業者との連携などについて考えていただければ。

- 松田氏 ネットワークの目的に沿うという条件も要件に加えるといいのでは。
この補助金は2分の1補助であるが、大学は半分持ち出しとなると厳しくなってしまう。
この補助金は事業者が主に活用しやすいイメージ。
金銭的な支援以外でも、市の媒体を活用できる、特例指定（特区など）を受けられるといったメリットがあればうれしい。
- 事務局 今回の段階でも、公共施設を活用する、市の媒体を活用するといった、市のできる範囲での協力はしたいと思っている。
- 松田氏 であれば、あらかじめオープンにしていた方が、応募ハードルも下がるのではないかと。
- 濱田氏 公募期間中にこういったものが上がってくるのかはわからないが、会員同士で意見交換しながらこういった事業ができるのかを練ってもらうというところが現実的かも。
- 事務局 募集内容についても今後ご意見をいただきたいと思う。
- 松田氏 お金を補助する時点で持続可能ではない。継続性のために内容を検討すべきかも。
- 事務局 補助金については、今回の状況を見ながら、来年に向けて使い勝手のいいものに改善していけるようにアドバイザー会議の中で議論させてもらいたい。
- 浦林氏 まちサポは、補助上限が低いと、小さい規模でたくさん事業を実施するということではそちらの方が市民の啓発にはつながりやすい。
- 事務局 上限としては40万円だが、それより小さい額でも構わない。
市民に行動してもらうということが最終的なゴール。
来年度はワンテーマプロジェクトとして、環境フェスティバルの改善を考えている。現在抱えている課題として、参加者が固定化している。環境以外にもテーマを広げて、SDGsを体感できるイベントにできないかを考えている。
そのテーマを健康のような一本のテーマにするのか、横ぐしをさせるような抽象的なテーマにするのか。
- 事務局 運営側も固定化してきて、発想も固まっている。再構築のためにも運営側に市民に入ってもらえたら。
- 清水氏 フェスティバルは市主催か。
- 事務局 主催は市だが、エコネットいこまに委託。エコネットいこまの体制的にも独自で運営企画が厳しくなっている。
- 清水氏 市の取組の中ではとても大きなイベントだと思う。集客もすごい。
- 事務局 市でも5本の指に入る規模。
イベントというところでは、先日スタイリングウィークと題して濱田先生にエシカル消費テーマのワークショップを開催。身近なテーマからSDGsについて考えた。
- 濱田氏 子持ちの参加者とも話したが、農業イベントへの参加を希望していた。
エシカル消費に向けて、自分でできることとして、自分で野菜を作りたいという人が多くみられた。

ファミリーが参加しやすいイベントなどが良いのでは。

清水氏

JA、農事組合は巻き込めないのか。

ここは、北コミの横でイモを栽培するなどの親子イベントなどを行っている。そういうところを巻き込んでみては。

JAも朝市をしたりしている。空いている土地を持ってたりもするので、取組に幅が広がるのでは。

食べることはみんな関わりを持ちやすいので、市民が参加しやすいテーマになるのでは。

濱田氏

何かを始めたい。農業を始めたいと思っても、一人ではハードルが高い。ワークショップなどで仲間ができるとやりやすい。継続も期待できるかもしれない。

事務局

マッチングイベントなどもテーマを絞ってすることも必要と考えている。

松田氏

会員が資金を出して、事業受託者を募るという流れはどうか。つまり、会員が取り組んでほしい事業に対して取り組む会員を探す。

事務局

1回のイベントで課題をすべて洗い出すことは難しい。

プラットフォームクローバーのように常設のものも必要と考えてる。

濱田氏

ネットワーク会員に発信できるものを作ってもらうこともいいのでは。

事務局

希望するイメージとしては掲示板のような形。

みんなで気軽に投稿出来たらいい。

松田氏

市民の希望するテーマを情報収集できるかもしれない。

事務局

事業は事業者同士で自律的にしてもらえる形が理想。

松田氏

市の媒体などで取り上げてもらえればよりよい。

事務局

事務局が間に入らずとも、会員同士で自律的にマッチングできるのが理想。

一足飛びでそこまで行くことは難しい。そういう風につながるようにしたい。

浦林氏

SDGs ポイントのように、掲示板にポイントがたまる取り組みを募るのはどうか。市民のインセンティブになる。

事務局

ポイントがあると頑張りが見える化できる。

浦林氏

ビジネスほど大きなものでなくても、市民のみんなが、SDGs に参加した証としても使える。

事務局

大人を動かすために子どもを起点とすることも大事。

先日の生駒小学校でも SDGs テーマの出前授業を実施した。

清水氏

子どもが授業で習ったことを家で話題にする。

幼稚園の時にフェアトレードのマークを授業で学んで家でよくそのことを話していた。

SDGs はとても広いし、今回の出前授業はアフリカの話まで広がるもの。

それよりも、SDGs を身の回りの目標として落とし込んでもらえるような内容がいい。

浦林氏

環境フェスティバルでも、SDGs を子どもでも分かりやすい言葉に翻訳するといった取組はしていた。

事務局

解釈を考えることは大事。マークは見せやすく、わかりやすい。そういったところから

入ることもいい。

清水氏 環境とかについて考えるきっかけになったのは子どもだった。
学校で子どもが学んできて、子どもから指摘されることで考え方が変わったりする。

事務局 既にいろいろなアイデアをいただいた。
今後何か形にしていきたい。

第3号議案 今後の予定

事務局 SDGs 推進事業補助金の提出締切を11月12日に予定している。
次回のアドバイザー会議はこの補助金の提案事業についてのアドバイス等を議論いただきたいと考えている。
オンライン開催でも対応可能。
調整の結果、11月22日（月）13時～15時とする。